

2010年3月24日・「合同個人投資家セミナー」

会社説明資料



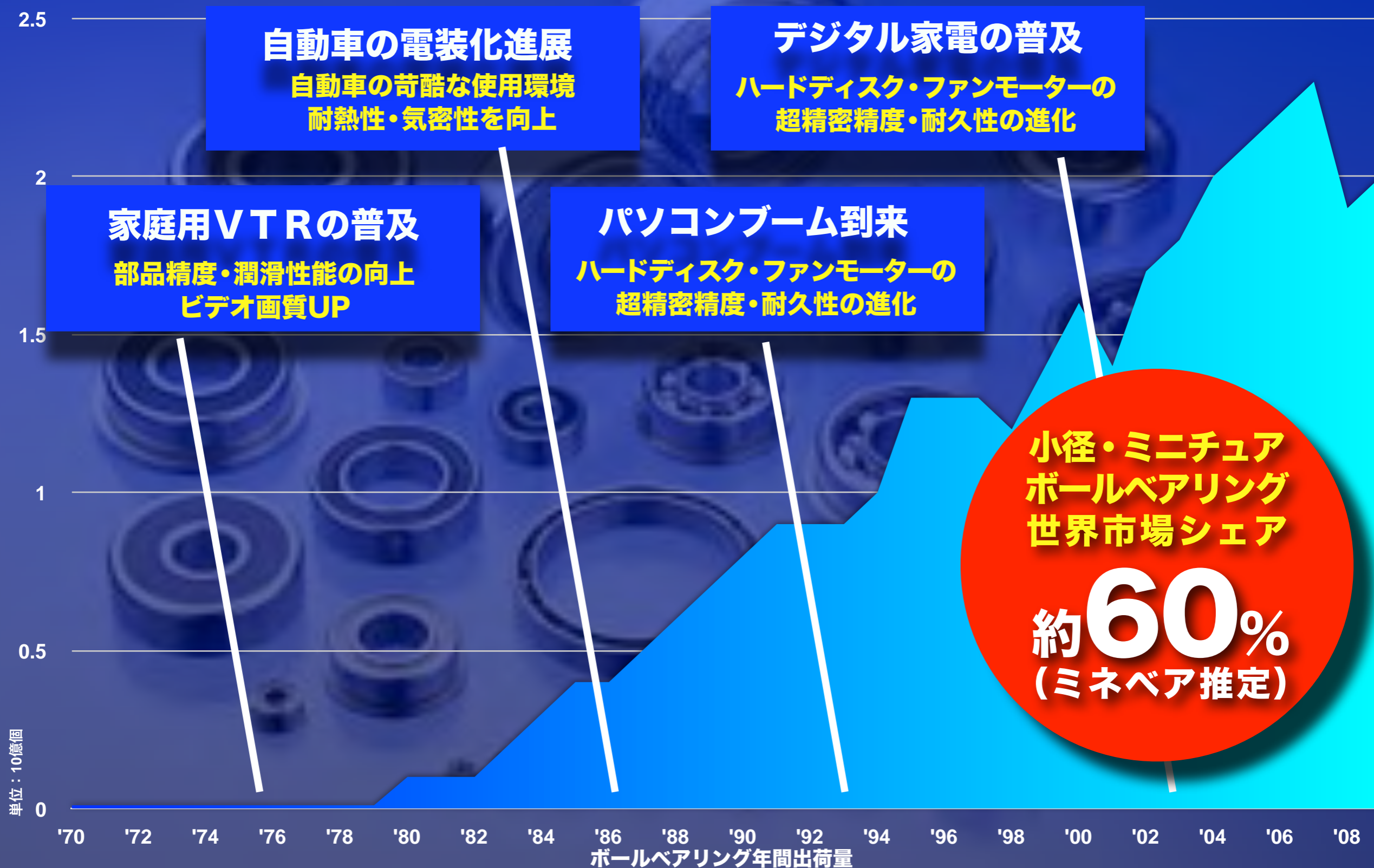
代表取締役 社長執行役員

貝沼 由久

ミネベアの歴史・現状と課題

ミネベア製品の中核：ボールベアリング

ミネベア製ボールベアリングの用途拡大と進化



機械加工製品



- スフェリカルベアリング
- ピボットアッセンブリー
- ボールベアリング
- ロッドエンド

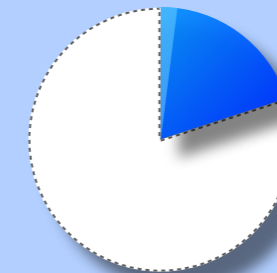


世界市場シェア
約50~60%

回転機器製品



- HDDスピンドルモーター
- ステッピングモーター
- ファンモーター
- DCモーター
- 振動モーター
- 特殊モーター



世界市場シェア
約2~20%

電子機器製品



- ライティングデバイス
- バックライトインバーター
- キーボード
- スピーカー
- 計測機器



世界市場シェア
約3~10%

特殊機器製品



- 防衛関連用特殊機器

設立時期	1951年
事業内容	ベアリング等の機械加工品事業、回転機器などの電子機器事業
資本金	68,258百万円 (2009年3月末現在)
売上高	連結:256,163百万円 (2008年4月1日~2009年3月31日)
従業員数	連結:48,443人 (2009年3月末現在)
製造拠点	10カ国・29ヶ所
上場取引所	東京証券取引所、大阪証券取引所、名古屋証券取引所
株式インデックス	日経225、TOPIX、東証1部電気機器、MSCI、FTSE
時価総額	2,123億円 (2010年3月12日現在)

総合精密部品メーカーのミネベア

総売上高(連結) **2,561億6,300万円**
(2008年4月~2009年3月)

売上高比率

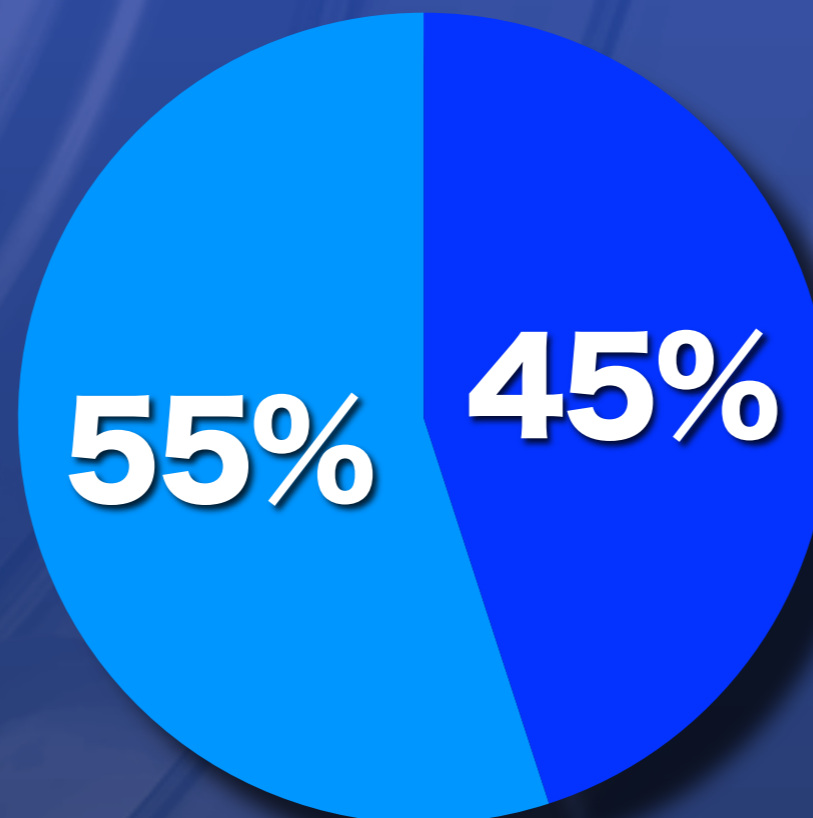
電子機器事業

電子機器

- LEDバックライト
- 計測機器
- キーボード
- スピーカー

回転機器

- HDDスピンドルモーター
- ファンモーター
- ステッピングモーター
- 振動モーター
- DCブラシ付モーター



機械加工品事業

- ボールベアリング
- ロッドエンド&スフェリカルベアリング
- ピボットアッセンブリー
- 航空機、自動車用ネジ類
- 特殊機器

① グローバル展開

② 大量生産方式

③ 垂直統合生産システム

④ 超精密機械加工技術

⑤ 積極的なM&A

① グローバル展開 / ミネベアの歴史的競争力の根源

日本、タイ、中国、シンガポール、欧州、米国など世界14ヶ国に44の子会社および関連会社、約48,000人の従業員を擁し、29ヶ所の製造拠点と43箇所の販売拠点を展開(2009年3月末)



タイ



中国



シンガポール



ボールベアリング
月産 2億個



各種モーター
月産 5500万台



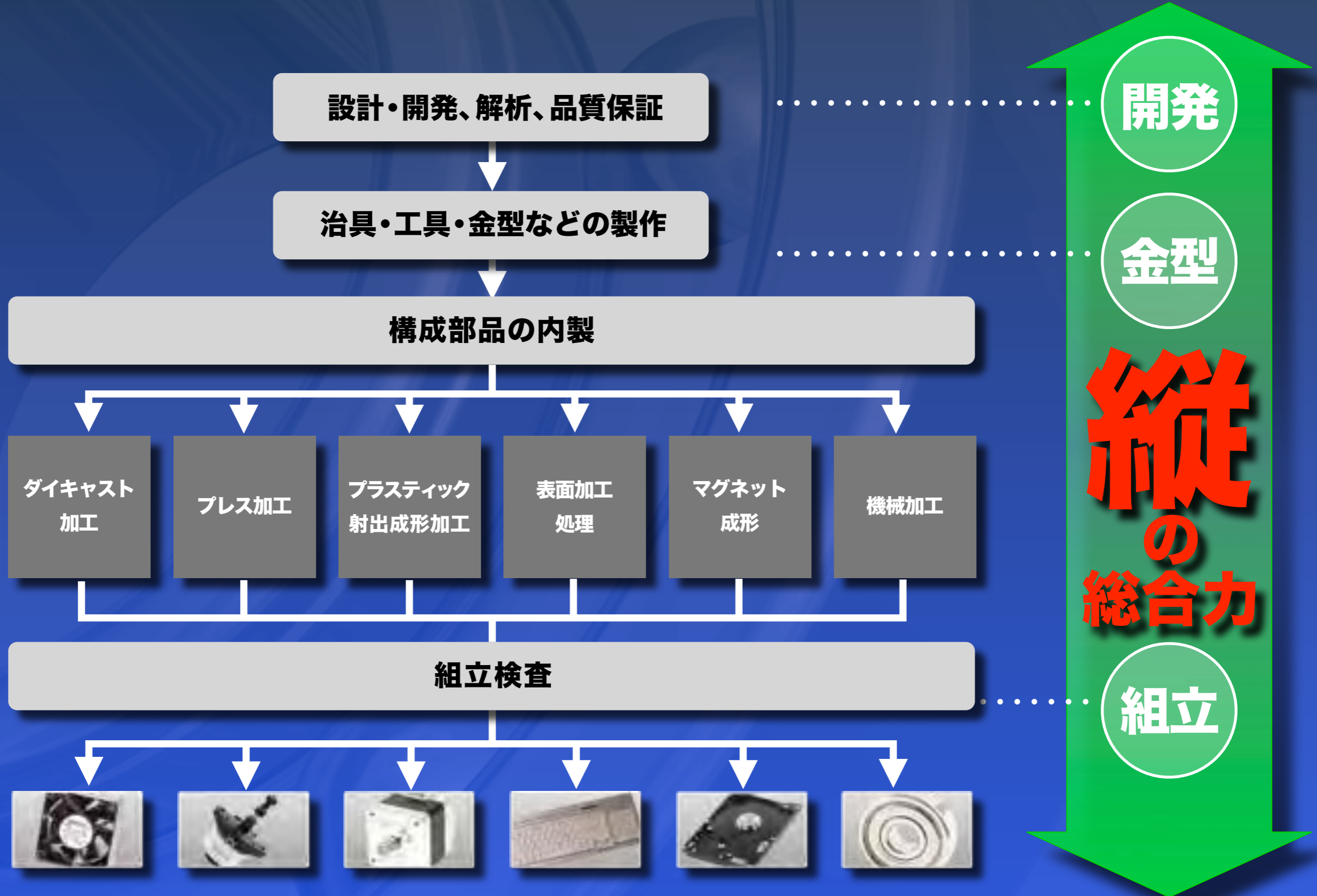
液晶バックライト
アッセンブリー
月産 1800万台



キーボード
月産 100万台



③ 垂直統合生産システム / ミネベアの歴史的競争力の根源



④ 超精密機械加工技術 / ミネベアの歴史的競争力の根源

ミネベアの超精密機械加工技術は
軸受け・小型モーターをはじめ
各製品に活かされています



1971年以降、国内外31社を買収

1951年：日本初のミニチュア・ボールベアリング専門メーカーとして創業

1971年：SKF社のREED工場を買収し、米国において生産活動を開始

1975年：IMC Magnetics Corp. 東京螺子製作所、新中央工業を買収

1977年：大阪車輪製造、Hansen Corp.を買収

1980年：光洋精工のシンガポール工場を買収

1985年：米国のベアリングメーカー
New Hampshire Ball Bearings, Inc.を買収

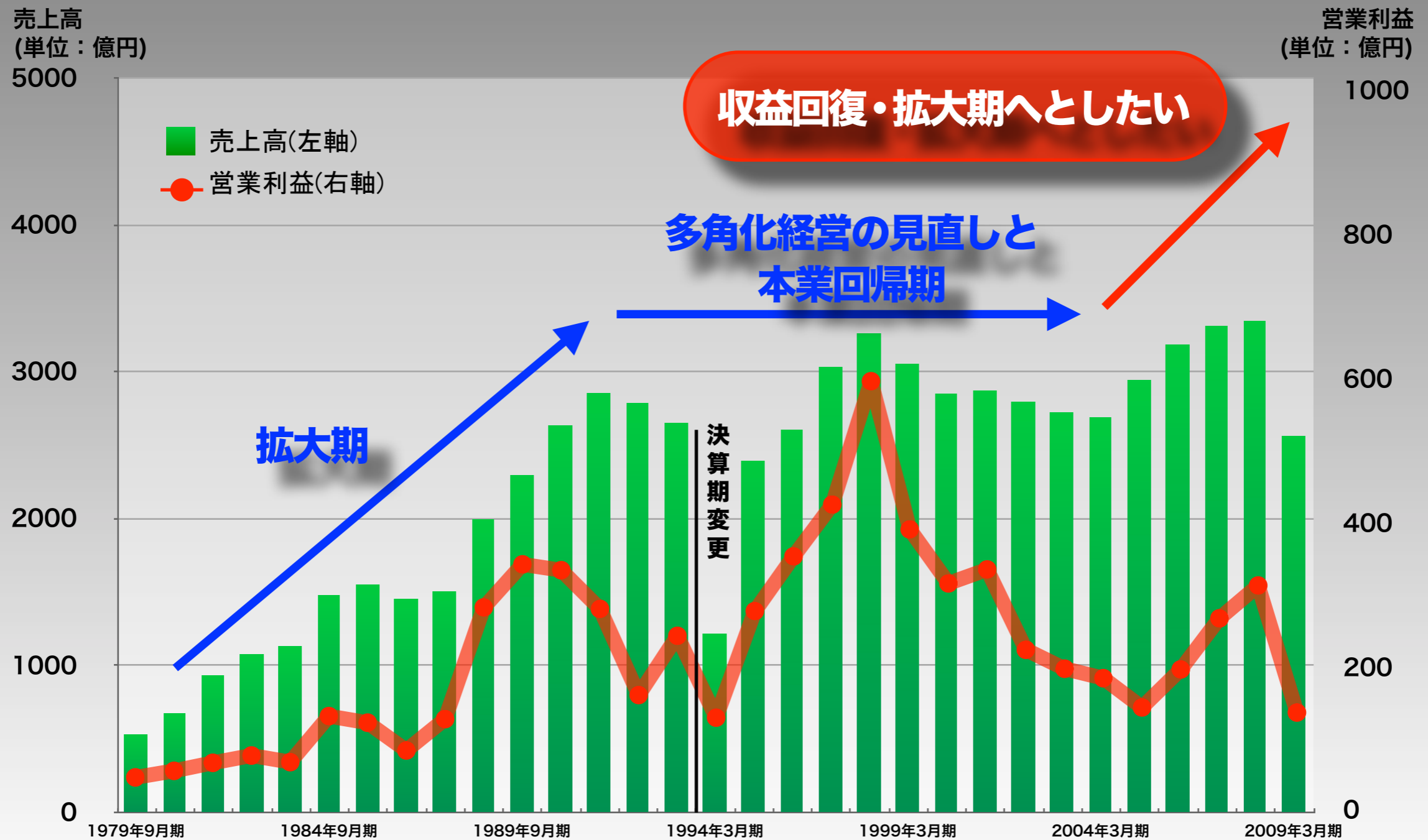
1988年：英国のベアリングメーカーRose Bearings Ltd.を買収

2004年：松下電器産業(株)との合併会社
「ミネベア・松下モータ株式会社(現 ミネベアモータ(株))」設立。

2009年：FDK株式会社のステッピングモータ事業
ドイツのベアリングメーカー myonic Holding GmbHを買収

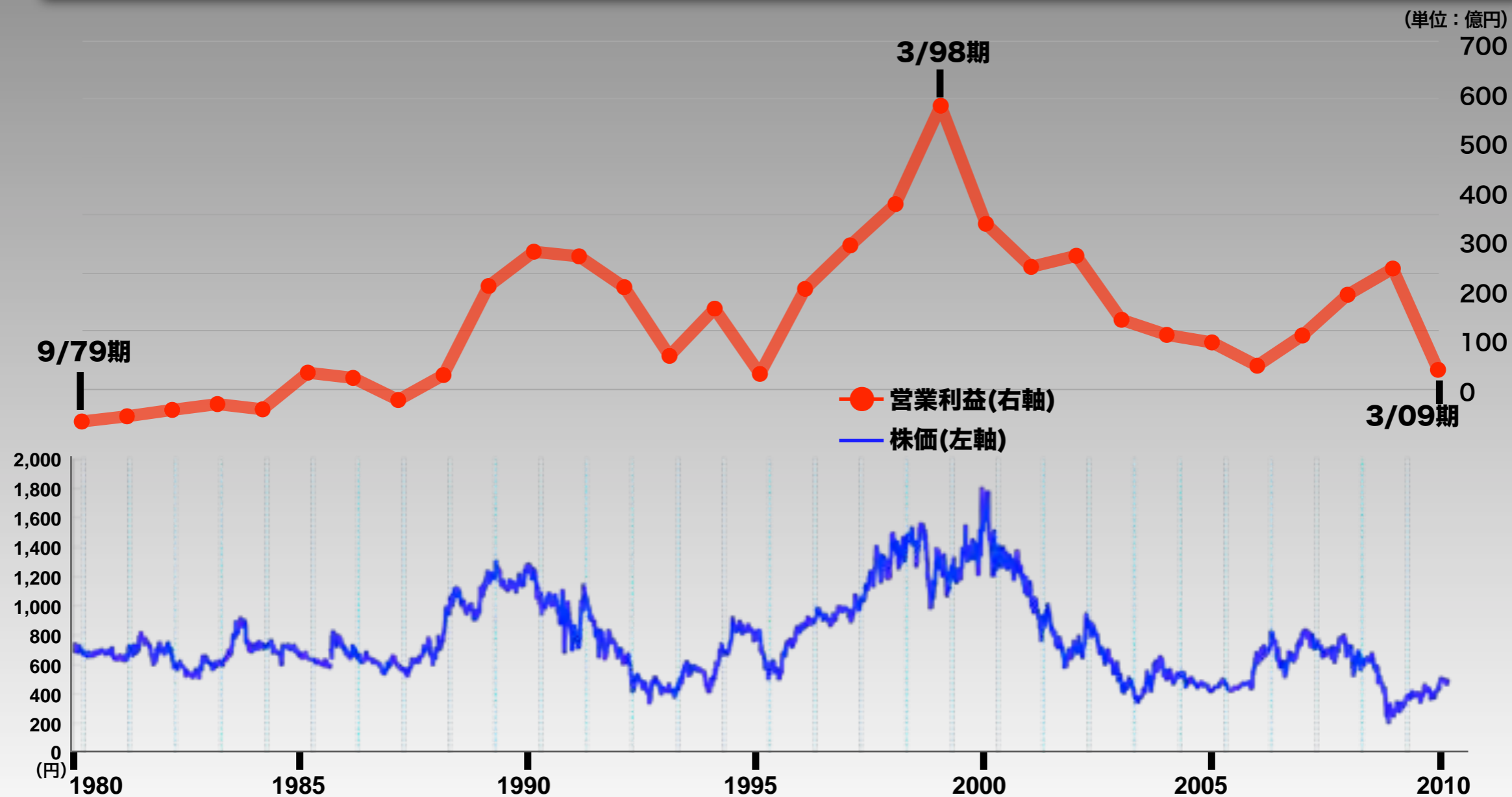
2010年：パナソニック社情報モーター事業を譲り受ける予定

連結売上高と営業利益の推移(過去30年間)



ミネベア30年間の株価推移

1961年08月 東京証券取引所市場第二部発足と同時に、第二部に上場。
1970年10月 東京証券取引所市場第一部に上場。



営業利益の拡大

営業利益率
改善

売上
拡大

新規事業
のための
種まき

既存事業

新規事業

課題に向けた経営方針

2009年3月期決算説明会にて

一株当たり利益の向上

一株当たり利益の最大化を図り、
企業価値の向上を目指す

企業価値
向上

ミネベア100周年のための基礎固め

経営資源の成長と
確かな方向性を見極める

経営資源
成長

ミネベアの特徴

垂直統合生産方式による部品からの一貫生産
縦の総合力

機械加工品・回転機器・電子機器・特殊機器という幅広い製品群
横の総合力

超精密機械加工技術

豊富なM&Aの経験

**これら優位性を最大限に活用することによって
営業利益の最大化を図ることが私のミッションです**

**超精密
機械加工技術**

価格対応力の強化

縦
の総合力強化

垂直統合生産方式

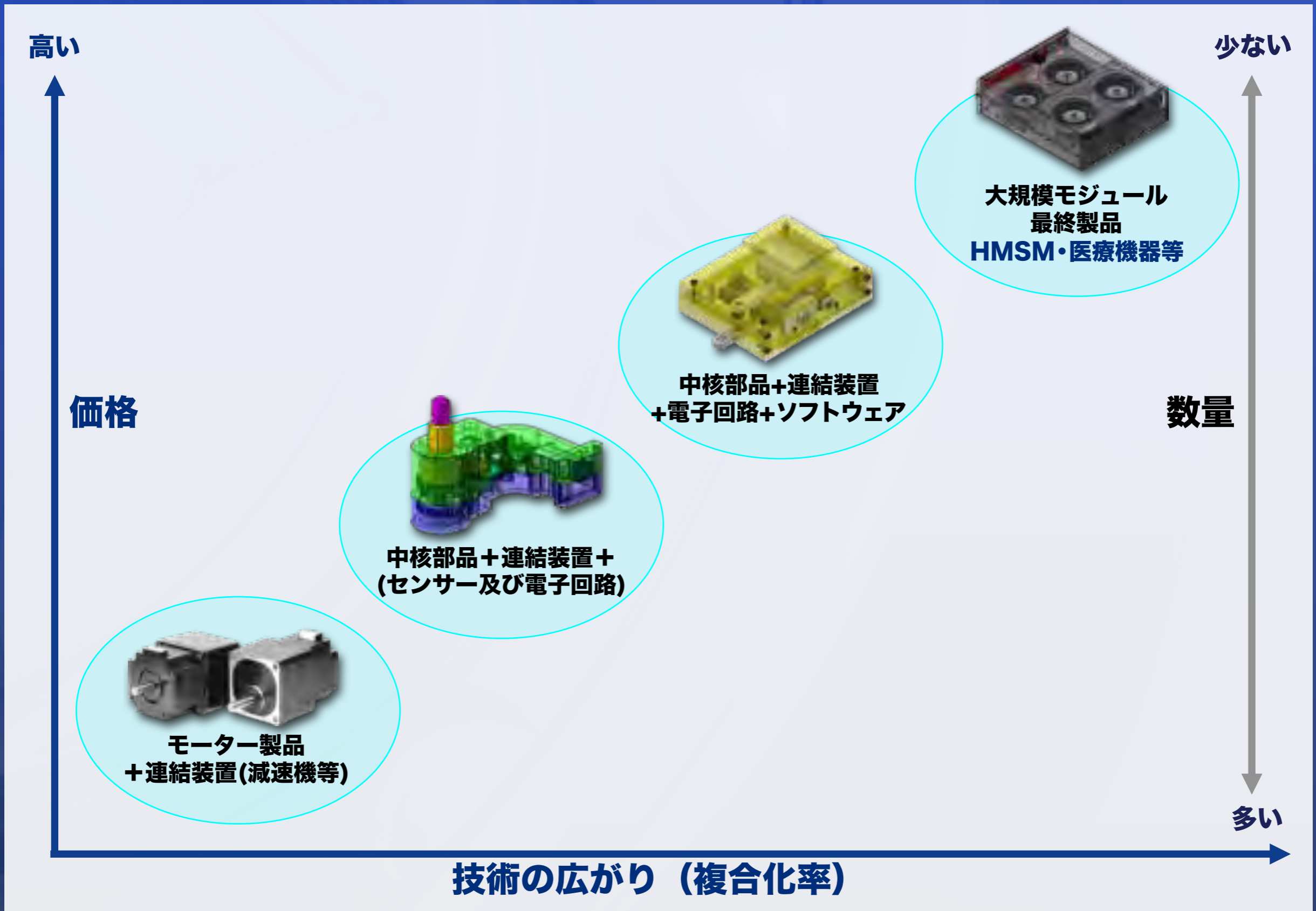
**豊富な
M&Aの経験**

様々な製品群 様々な技術

横
の総合力強化

顧客要求対応力の
強化

EMSプロジェクト / EMS製品とは?



横の総合力の発揮

機械加工品

回転機器

電子機器

総合力を活かした製品 = EMS
(エレクトロ・メカニクス・ソリューションズ)

COOL LEAF
Business Design Model
∅-Products Prospectus

計測機器
(フォースセンサー)

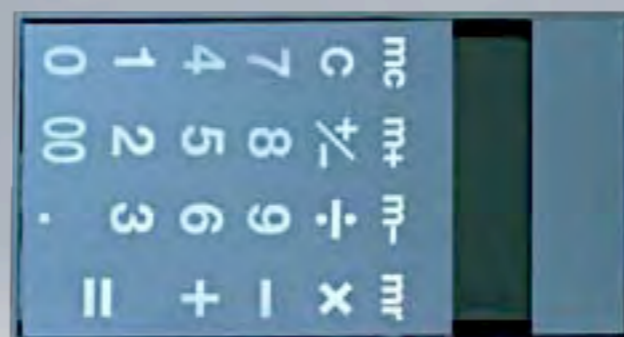
ワイヤレス技術
(2.4G Hz/PAN)

キーボード
(静電容量型)

振動モーター
(疑似感覚/ハプティックス)

ライティングデバイス
(導光板/光学設計)

COOL LEAF 第1弾開発



将来の
インテリジェント
コントローラーへ

- 同一デザイン・コンセプトに基づく商品開発
- 新素材(名称は登録申請中)を使用し、タッチパネルを実現した入力デバイス
- 入力デバイス全体へ応用展開するプロダクトシリーズ化

機械加工品



マーケットリーダー戦略

高いシェアを背景に、供給力とコスト対応力の推進
更なる拡充を目指したM&A・新市場の開拓と参入

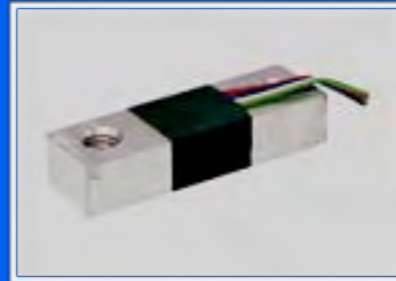
回転機器



ソリューション提供戦略

「徹底したコストダウンと数量増」のグループ
「機能を合わせて売る」グループ

電子機器
特殊機器



差別化戦略

「他社とは違う高付加価値」を狙う

HDD
スピンドル
モーター



収益重視戦略

来期の黒字化
市場拡大に応じた数量の拡大

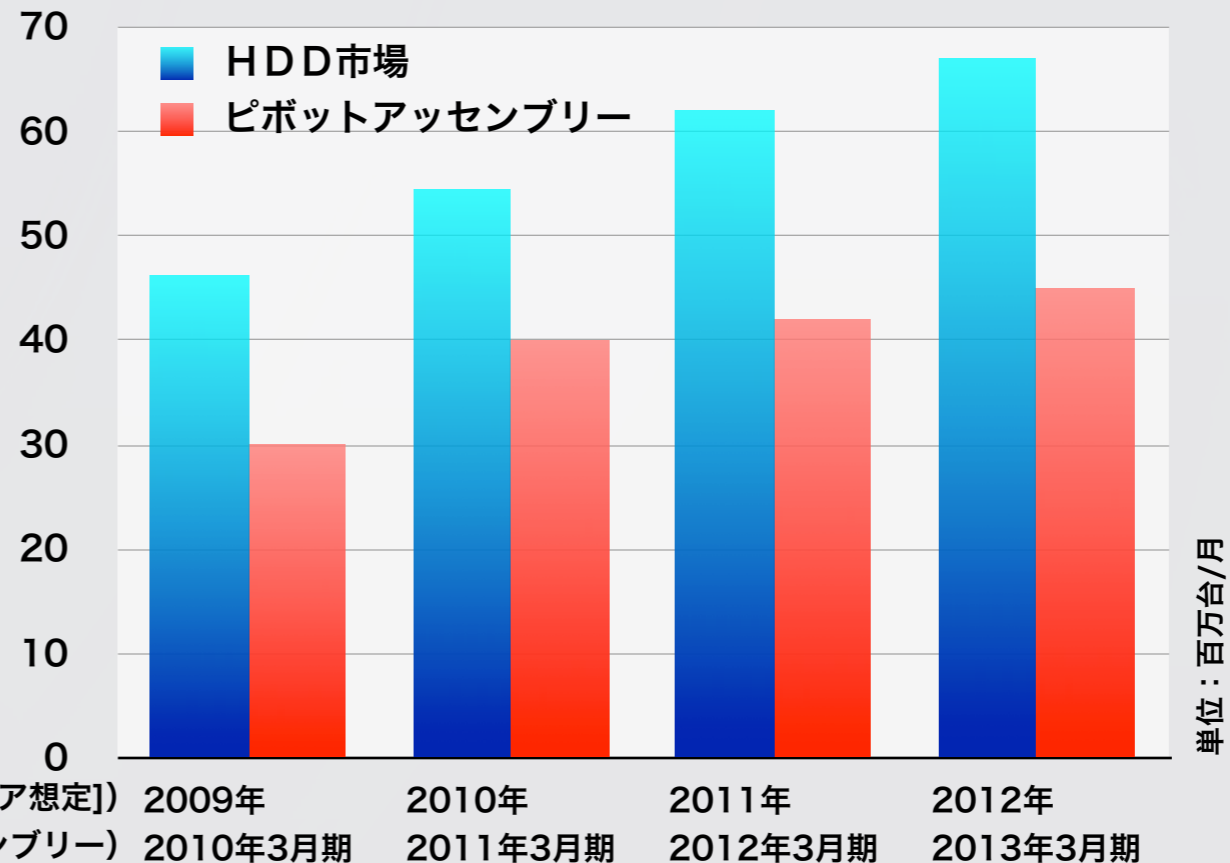
今後のHDD市場は
再加速の見通し

今後3年間で
ピボットアッセンブリーの
生産能力を約**1.5倍**に

ピボットアッセンブリー生産能力増強計画



2011年3月期～2013年3月期
ピボットアッセンブリー
能力増強設備投資計画額：75億円
(クリーンルーム増床、生産設備導入等)

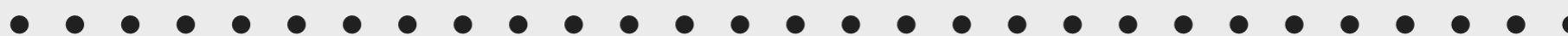


※ピボットアッセンブリーの増産に伴い、使用するミニチュアボールベアリングの増産対応も行う

配当方針

今期期末配当 **4** 円/株予定

今期合計年 **7** 円/株予定



当社は、経営環境を総合的に勘案し、
継続的に安定した利益配分を維持しながら、
株主資本の効率向上と株主へのより良い利益配分を第一義とし、
業績をより反映した水準での
利益還元をはかることを基本方針といたします。

① 組織再編と権限委譲

**② パナソニック社
情報モーター事業の譲り受け合意**

**③ 500万株の自社株買い実施
(2008年実施分と合わせて計1,500万株)**

**④ 従業員持株インセンティブ・プラン
E-Ship[®]の導入 (約220万株を従持信託で取得)**

⑤ EMS製品“COOL LEAF”の製品化

景気回復に伴い、売上4,000億円が視野に入った!!

合計 約**3,800**億円

< 新規取得事業売上 >

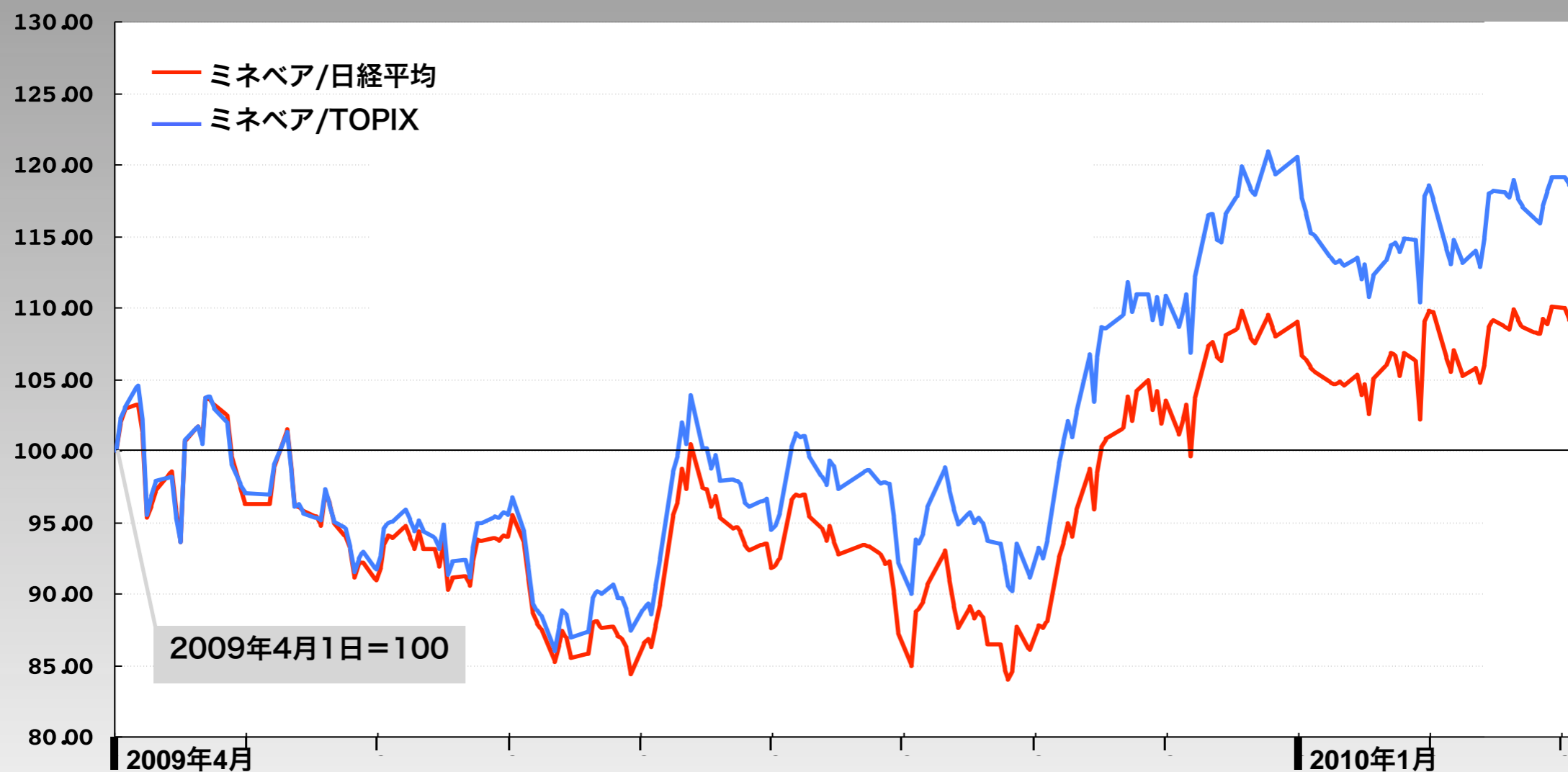
マイオニック社・FDK社ステップモーター事業
パナソニック(株)モータ社情報モーター事業

約**420**億円

ピーク売上高
(2008年3月期)

3,344億円

ミネベア株価/日経平均・ミネベア株価/TOPIX



情熱は力

情熱はスピード

情熱は未来

ありがとうございました

ミネベア株式会社

<http://www.minebea.co.jp/>

上記説明会で述べられた内容のうち歴史的事実でないものは、一定の前提の下に作成した将来の見通しであり、

また、それらは現在入手可能な情報から得られた当社経営者の判断にもとづいております。

実際の業績は、さまざまな要素により、これら見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。

実際の業績に影響を与える重要な要素としては、

(1)当社を取り巻く経済情勢、需要動向等の変化、

(2)為替レート、金利等の変動、

(3)エレクトロニクスビジネス分野で顕著な急速な技術革新と継続的な新製品の導入の中で、

タイムリーに設計・開発、製造・販売を続けていく能力、などです。

但し、業績に影響を与えうる要素はこれらに限定されるものではありません。

本資料に掲載のあらゆる情報はミネベア株式会社に帰属しております。

手段・方法を問わず、いかなる目的においても当社の事前の書面による承認なしに、

複製・変更・転載・転送等を行わないようお願いいたします。